

## 会 議 録

### 1 会議の名称

令和7年度第1回 茨城県央地域ウエルネス推進協議会

### 2 開催日時

令和8年2月27日（金） 午後2時から3時まで

### 3 開催場所

水戸市保健所 3階 健康診査室

### 4 出席した者の氏名

#### (1) 委員

上地勝, 坂間伊津美, 金澤秀房, 田澤重伸, 今井章人, 中村友美, 黒澤春美, 小泉邦彦,  
大曾根光江, 高林修, 大川きみ子, 高嶋はるえ, 佐藤栄子

#### (2) 事務局（水戸市）

小川佐栄子, 堀江博之, 福田淳子, 春日剛, 大谷明寛, 深作美奈, 西山拓海

#### (3) 関係市町村 担当者

笠間市, ひたちなか市, 那珂市, 小美玉市, 茨城町, 大洗町, 城里町, 東海村

### 5 会議資料の名称

- ・ 次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 資料1 令和7年度の社会実験 実施報告
- ・ 資料2 第2期いばらき県央地域連携中枢都市圏ビジョンについて

## 6 発言の内容

【事務局】 それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第1回茨城県央地域ウエルネス推進協議会を開催いたします。本日は、お忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日は委員18名のうち、13名出席しておりまして、\_\_\_委員、\_\_\_委員、\_\_\_委員、\_\_\_委員、\_\_\_委員は諸事情のため欠席との連絡を受けておりますので、御報告いたします。\_\_\_委員につきましては、少し遅れるという連絡をいただいております。

それでは、はじめに、\_\_\_会長より御挨拶をいただきたいと存じます。\_\_\_会長、よろしくお願いいたします。

【会長】 こんにちは。本年度第1回目の茨城県央地域ウエルネス推進協議会開催にあたり、一言御挨拶申し上げます。

令和4年度に立ち上げたこの協議会も、本年度で4年目となり、これまでの取組の中で、県央地域住民の健康づくりに資するための社会実験を施行してきたところです。

本日は、本年度実施した社会実験の内容と、来年度実施する社会実験の方針、そして、より大きな枠組みとしての今後の本協議会における取組の方針について御報告いたします。

委員の皆様におかれましては、それぞれの立場から、忌憚のない御意見をいただければ幸いです。限られた時間ではございますが、本協議会が活発な御審議となりますようお願い申し上げます。御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】 それでは、これより議事に移らせていただきます。

議事進行は、\_\_\_会長をお願いしたいと存じます。\_\_\_会長、よろしくお願いいたします。

【会長】 それでは、皆様、よろしくお願いいたします。

議事に先立ちまして、本日の会議録署名人につきましては、\_\_\_委員、\_\_\_委員のお二人を指名させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これより議事に入ります。議題(1) 令和7年度の社会実験 実施報告について、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、議題(1)になります。資料につきましては、資料1を御覧ください。

令和7年度に行った社会実験の実施報告となります。令和7年度においては、AI歩行診断と足健診の2種類を実施しています。

1つ目の社会実験は、AI歩行診断です。ミラーウォークというのは、この歩行診断のシステム名です。こちら写真のように、モニターの前で歩く姿をリアルタイムで撮影し、歩き方の採点や、個人の歩き方に沿った右図のようなアドバイスがシステムから自動出力されるというものです。

なお、今回はシステムだけでなく、理学療法士または医師も常駐し、さらに個別に踏み込んだアドバイスも行いました。

こちら実施後に事後アンケートも行っており、その結果は後程説明します。

実施目的としては、自身の歩き方の把握と正しい歩き方を知ってもらうことで、歩き方を改善し、ウォーキングのモチベーションを高めてその定着化や身体活動量の増加を図ることや、このA I 歩行診断でどれだけその効果があるかを把握するものです。

連携企業はジャパンヘルスケアとあって、後程説明する2つめの社会実験でも同企業と連携しています

実施日ですが、こちらひたちなか市と水戸市の2つのイベント内でそれぞれ開催しています。

ページを返していただき、(5)参加人数ですが、1回目と2回目の合計で500人が参加し、性別で見ると女性が多い結果となりました、年齢別で見ますと、グラフにあるように、主に40代から70代までに参加いただいています。

ページ返していただいて、(6)実施結果です。

A I 歩行診断は、下のイメージにあるように、姿勢・腕振り・足運びの3点を基準として点数化し、SからDの評価を付けます。性別・年齢別どの区分でも一番多いのはC評価で、主に猫背・腕を振っていない、足を運ぶ時の股関節の伸展が弱いことが原因として上げられます。

また、なかには例えばスカートなど、足の運びが測定しにくい方については、やや低く採点されることもありました。

その他、補足的なところですが、ジャパンヘルスケアはひたちなか市や水戸市以外でもこのA I 歩行診断は実施しておりまして、そこでもやはりC評価が多いようで、水戸市やひたちなか市が特別悪い、というわけではないようです。

事後アンケートの結果についてです。

こちらは当日の参加いただいた方内、アンケートの実施に同意いただいた方、ここではショートメッセージを送るための携帯電話番号を提供いただけた方に行いました。

方法としては、最近水戸市ではショートメッセージ送信サービスが利用できるようになってまして、こちらを利用して行いました。

ひたちなか市で実施した1回目については、実施期間は、A I 歩行診断を行って約2か月後の11月末から12月末まで行いました。水戸市で実施した2回目については、来月行う予定です。

続いて4ページと5ページを見開きで御覧ください。

エの回答者数ですが、参加者254人のうちアンケートに同意いただいた方は約3割の89人で、そのうち回答がかえってきたのが15人でした。なお、2回目のアンケートはこれからなので、以下の結果は1回目のものとなります。

オからは実際のアンケート内容になりますが、体験した方の多くに歩行に対する興味を持ってもらえるという結果でした。

そしてカですが、A I 歩行診断を体験する前の状態について聞いたものです。ここでは行動変容ステージに合わせて問いを設定しております。

5ページの右下に、参考として行動変容ステージについて記載しておりますが、

これは健康の関心や行動の段階が、なにも関心がなく、なにも実行していない無関心期の状態から、関心が高まり、実際に行動に移してどんどん次の段階へ進むのがよいというものです。

4 ページのカに戻りまして、こちら体験前は無関心期に当たる方が8割でした。

一方、キの体験後には、無関心期に当たる方は大幅に減少し、関心を持つようになり、実際に改善に取り組始めている方が出てきたことがわかります。

5 ページ右上のクは前後の状態をグラフ化したものです。体験前無関心期 80%だったのが 6.7%となり、関心が高まった関心期や、関心が高まり、さらに実行している実行期に当たる方が増えております。

このように、アンケートでは非常に良好な結果となったのですが、一方で回答者が少ないこともありますので、より詳細な検証には、より多くのサンプル数が必要ですが、それでも今回と同様な結果を得ることができれば、このA I 歩行診断は非常に有用なツールであると言えます。

ページを返していただき、歩行診断の総括ですが、まず運動習慣の定着化と身体活動量の増加の観点について、A I 歩行診断は多くの方の関心の引くコンテンツであり、自身では把握しにくい歩き方を簡便に可視化し、さらに各参加者の歩き方に沿った改善策も即時提供できるため、運動習慣の定着化と身体活動量の増加にも効果を見込めます。

次に意識や行動の変化ですが、先ほど説明したとおり、無関心期の方が減って関心のある方が増えてかなり良い結果となりました。

しかし、一方で、アンケートのサンプル数が足りないため、より正確な効果の検証のためには、今後様々な場所で開催し、より多くの方に参加いただく必要があります。そこでも今回と同様な結果が得られれば、非常に良い取組であることが実証できるかと思えます。

続きまして、2つめの社会実験である足の健康診断です。こちら令和5年度から継続して3年目の実施となります。

こちらは実際に素足の状態になってもらい、足の骨格などの状態を見るものです。かかとの傾きや親指の曲がりなど、いくつかの項目をシステムに入力すると、以下のような結果が個別に出力されるようになっています。

また、後程説明いたしますが、当日は水戸協同病院からも医療従事者に参加いただき、評価が悪い方や症状がある方については医療につなげるといって、予防医療の側面も強い取組となっています。

(2)実施目的としては、今後も継続して行うかどうか、その必要性や有用性を検証すること、コンテンツの需要について検証するものです。

7 ページになりますが、連携企業は先ほどのA I 歩行診断と同じジャパンヘルスケアという企業と、さらに水戸協同病院からも医療従事者の方に来ていただきました。

実施日はこちらは水戸市だけの実施で、A I 歩行診断と同時開催しました。

(5)参加人数ですが、こちら過去3年間の結果となります。基本的に毎年100人弱実施しており、性別では毎回女性が多いという結果です。毎回100人程度でありま

すが、常に行列が絶えない盛況ぶりでした。

今年度は混雑の対応として、初めて整理券を配布して実施したのですが、午前中で整理券の配布が全て終了するなど、かなり人気の高いコンテンツであることが伺えます。

次の8ページになりますが、年齢別で見ると、参加者の多くは50代から70代という結果でした。A I 歩行診断では40代から70代だったので、足健診のほうが少し年齢層が高い模様です。これは、実際に足に問題や悩みを抱えるかたが、50代以降で多いものと思われます。

9ページに移りまして、こちら実施結果です。まずは数値的なデータを御説明します。

足健診ですが、ページ下の評価基準イメージにあるように、足の状態をいくつかの項目についてそれぞれ評価し、AからDの評価を付けます。

一番上の円グラフは3年間の総合になりますが、こちらは中程度の足の歪みが認められるC評価が一番多いです。

次に5年度のデータはなくて恐縮ですが、性別で見ますと、男性はA評価、女性はC評価が多いという結果でした。

なお、一番上の全体の結果について、今年度に関しては実はC評価よりもA評価が多く、B評価についてもかなり多くなっています。

こちらは、重症で足について気になっていた方は過去の足健診で既に対応をした可能性があると考えられます。

次に、特に女性でなぜC評価が多いのか、ということですが、これはかなり個別の状況によるとのことで、一概に理由をまとめるのが難しいそうです。ですが、特に女性では親指が小指側に曲がる外反母趾が多いなど、靴の影響も考えられます。

また、低い評価の方は今後どのような対応が必要になるかということに関し、このジャパンヘルスケアではインソールの提案も行っていますが、実際は個別の状況に応じた対応が必要とのことです。

10ページ目に移りまして、足健診の総括です。

過去にもこの足健診を受けた参加者から、「足の状態が改善した」との声があったので、継続実施の効果が示唆されます。

また、評価が低い者や症状がある者は医療につなげるなど、予防医療の取組として一定の有用性が認められ、A I 歩行診断と一緒に実施することによる相乗効果も期待できる。

一方で、足健診については体験した方の意識や行動がその後どのように変化したかまでは把握できておらず、効果の検証には課題が残っています。

需要の有無については、午前中に整理券の配布が終了するほど盛況であり、コンテンツ自体の需要は高いと想定されます。

足の悩みを相談する機会や場所は少なく、足健診はそのような機会や場所の提供として有用と言えます。

ただし、需要が高いのが先ほども申し上げました通り50代以上となっております。また、以前の協議会などでお話をしていた、本来のターゲットとしたい層というのが

働き盛り世代の30代から50代、少し若い層にアプローチをかけて今後の医療費の抑制等につなげていきたいという思いもありましたので、そのターゲット層とは少し外れてきてしまっているような形になっております。

今後についてですが、1日100名程度というキャパシティに対し、リピーターが増えてくると、新規に受けられる人が減ってしまうなどの課題もありますが、一定の需要と有用性は認められるため、運用や効果検証の手法について見直しつつ、圏域内の市町村で今後継続して実施するか検討したいと思います。

資料の内容、少し続いているのですが、一旦議題(1)の説明としてはここで区切らせていただきます。

【会長】 ただいまの内容につきまして、御質問、御意見等ございましたら、お願いいたします。

【\_\_\_委員】 \_\_\_でございます。

3ページでございます事後アンケートに関しまして、質問させていただきます。

対象者に関しましては、ショートメッセージサービスをお使いになっての方法であったとありますが、当日例えば紙媒体でアンケートへの御協力というのは行っていなかったのでしょうか。

【事務局】 AI歩行診断に関し、当日書いていただいたのは、どこから来ましたかとか、今後アンケート協力いただけますかという内容だけでした。当日のアンケートはとっておらず、その辺は事後アンケートとして約2ヶ月後に行ったところとなります。

その場でアンケートを取ると、良かったというような回答だけで終わってしまいがちだったのが、これまでの傾向としてありましたので、当日のアンケートはやめて、実際足健診を体験して、その後でも効果が続いているのかを聞いたかったので、事後だけ実施しました。

【\_\_\_委員】 それと、アンケートの回答に関しまして、ちょっと少なかったということもありますが、参加いただいた年齢層がどうしても高いので、例えばSMS云々の媒体を使いこなすかどうかという点では少し、心配な部分があったのではと思います。

その辺に関しまして、何か、参加者の皆様に、このようにやってくださいといったリーフレットやパンフレットみたいなものはお配りなさいましたでしょうか。

【事務局】 今回、特にSMSは初めての試みでもありましたので、当日、お配りするものの中には、このような事後アンケートを行います、内容はこのようなものです、といった説明文を渡し、それに同意していただいた方から電話番号を提供していただいて、そこに対してアンケートを送った形になっております。

ただ、おっしゃる通り、SMSで送られてくるのは、実際はアンケートに飛ぶリンク、URLとなっています。

世の中的にはショートメッセージにリンクがあり、そこに飛ぶと変なサイトに飛んでしまうということもなくはないので、やや警戒されてしまったケースもあったのかなというところでは。

【\_\_\_委員】 わかりました。ありがとうございました。

【会長】 アンケートの取り方については、今後、改善をしていくところかと思っております。いかがでしょうか。特によろしいでしょうか。

他の議題も進めていく上で、もし質問等ございましたら、よろしくお願いいたします。

それでは続いて、議題(2) 令和8年度の社会実験についてについて、事務局から説明をお願いいたします。

**【事務局】** 続きまして、議題(2) 令和8年度の社会実験についてとなります。こちらは恐縮ですが、口頭での御説明となります。

令和8年度の社会実験について、なにを、どこでやるか、というお話になります。

まず、「なにを」という点ですが、今年度初めて実施し、好評であったミラーウォークを、より正確な効果検証という観点からも来年度も実施する方向で検討して参ります。

足の健診については、今回で3回目の実施となりました。引き続き実施していくのか、新たな社会実験を実施するのかを検討してまいります。

本協議会で実施する社会実験は、ICT、いわゆるデジタル技術を活用した健康づくりであり、来年度の新たな案についても、現在、構成市町村で検討中でございます。

検討のなかで、いくつか案も出始めているので、今後はその実現の可能性について、慎重に検討の上、候補を選定し、次の協議会で諮ってまいりたいと考えています。

さらに、こういった取組に関連して、茨城県の健康推進アプリ「元気アップ！リイばらき」の活用についても検討を進めたいと思います。

こちらのアプリは、例えば毎日の歩数に応じてポイントがもらえたり、健康への取組や健診を受けたりすることでポイントがたまり、そのポイントを使って抽選で景品が当たるなど、様々なインセンティブが用意されています。

水戸市単独の事業とはなりますが、このアプリを活用し、インセンティブを用意することで、新たに約1500件という大変多くの応募をいただけるようになったという事例があります。

これを県央地域で広く一体的に取り組むことができれば、より多くの住民の参加を見込めるなど、非常に効果的と考えられるので、社会実験と並行して具体的なやり方を考えてまいります。

次に、1点目の「なにを」に続いて、2点目「どこで」という点についてですが、これまでは主に水戸市で実施してきたところ、今年度はひたちなか市でも実施し、参加した住民の方々からも好評をいただきました。

来年度に関しても、水戸市と水戸市以外の自治体で社会実験を実施し、広く県央地域の住民の皆様に参加いただけるようにしたいと考えております。

ただし、社会実験の実施は、これ単独で行うと集客が厳しい面がありますので、「健康」に関するイベントに限らず、ある程度人数の集まる自治体のイベントの1ブースとして実施したいと考えております。

まだ各市町村で来年度どういったイベントがあるかを検討している途中なのですが、大洗町さんの「健康福祉・長寿まつり」や東海村さんの「スポーツフェスタ」などが候補としてあがっているところです。

今後検討を重ね、場所についても、次の協議会でお諮りしたいと存じます。

議題(2)の説明は以上です。

【会長】 ただいまの内容につきまして、御質問、御意見等ございましたら、お願いいたします。

まずは、本年度実施したミラーウォークですとか、もう3年間継続して実施してきた足の健康診断ですね。そういったものを同じように続けていくか、あるいは、今説明していただいたポイントと絡めてインセンティブをつけて、アプリを活用したものを県央地域に広げていくなど、色んなアイデアがありました。よろしくお願いいたします。

お手元に資料がないのでイメージしづらいかもしれませんが、それでは私からで、AI歩行診断ですけれども、ひたちなかで実施した場合も水戸で実施した場合も、かなりの人数集めることができ、しかも何て言うか、効率がいいという印象でしたが、費用的にはどうでしょうか。どれくらい費用がかかったか、いわゆるコストパフォーマンス的にはどうかというところの質問です。

【事務局】 AI歩行診断と足の健康診断を、少し比較させていただきますと、AI歩行診断に関しては本当にパソコンとカメラとモニター、機材類一式と、そこに医師、あるいは理学療法士が1人つくというような形になりますので、1人と機械で実施するものになっております。これで1日の参加者は250人ほどです。

一方で、足の健康診断に関しては、今回は4ブースで行いましたので、少なくとも医療従事者4人とそれぞれパソコンを使って行った形になります。このやり方で、参加者は1日100人程度となっています。

足健診は、かなり盛況であり、できる限りでは行っているのですが、キャパシティとしてはそのような形になっているので、コストパフォーマンスとしては、かなりAI歩行診断の方が良いものとなっています。

また、実際にかかるお金の部分に関して、AI歩行診断は今回は機械のリースとそこで人を1人つけてアドバイスをしてもらおうというので大体20万円以下ですが、AI歩行診断と足健診の両方セットでは30万円ほどとなっています。

かかってくる費用に加え、捌ける人数であったり、人的コストも考えると、AI歩行診断の方がコストパフォーマンスは良い状況になっています。

【会長】 ありがとうございます。

委員の皆様、いかがでしょうか。

【\_\_\_委員】 一つ質問したいと思います。

ミラーウォークの場合、結構な数の方がトライしていますけれども、時間的に1人に対して何分ぐらいお時間がかかるでしょうか。

もう一つ、この足の健康診断の方に関しましても、1人に対してどのくらい時間がかかるかというのをお聞きしたいです。

【事務局】 そちらの説明が不足していて大変申し訳ございませんでした。

AI歩行診断に関しては、1人あたり本当に2、3分で診断ができるものになります。

モニターの前を数メートル歩いてもらうだけですぐ、パソコンから結果がプリン

ターで出力され、アドバイスも含めて2, 3分で1人あたり終わるところです。

一方で、足の健康診断に関しましては、座って靴を脱いでいただくところから始まりますので、そこから足の状態をしっかり丁寧に見てアドバイスをする形になっております。こちらが1人あたり最低でも10分は必要で、長い方で15分ほどとなっております。

そのため、足健診に関しては、整理券をお配りしつつ混雑を避けながら実施していく必要があったのですが、AI歩行診断に関しては基本的に並んでもらって、できる方からどんどんやっていただくような形になっておりました。

【\_\_\_委員】 はい。ありがとうございました。

【会 長】 他いかがでしょうか。よろしいですか。

あとの時間で何かもし何かございましたら、よろしく願いいたします。

来年度の社会実験につきましては、引き続き事務局を含めて各市町村担当において検討いただき、検討結果を次の協議会で出させていただきますようお願いいたします。

イベントが特にキーになってくると思いますが、健康フェスティバルや健康関係のもので、どうしても年齢層が高めになってしまうので、それ以外のイベントを活用すれば本来ターゲットとしてる年齢層も対象になってくると思いますので、ぜひとも御検討よろしく願いいたします。

続きまして、議題(3)第2期いばらき県央地域連携中枢都市圏ビジョンについて事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは議題(3)について、資料2を御覧ください。

いばらき県央地域連携中枢都市圏ビジョンとありますが、こちらは健康に限らず、様々な分野において県央地域が連携して、取組を行うための方針を定めた計画となっております。

こうして皆様にお集まりいただき、これまで健康づくりの協議を重ねていったのも、大元にはこのビジョンというものがあります。

現在、こちらのいばらき県央地域連携中枢都市圏ビジョンが、いよいよ1期の終わりが見えてきて、次の第2期を策定する段階となっております。本日は、次の第2期ビジョンにおける本事業の位置づけや考え方などについて御説明させていただきます。

計画期間としては、1期が令和4年度から8年度、第2期については令和9年度から13年度の、5年間で予定されています。

1ページ下部の3 第1期ビジョン期間中の主な取組についてということで、まずはこれまでのおさらいになりますが、令和4年度に協議会を設立し、最初に圏域での健康課題を見つけるためのアンケートを行いました。

令和5年度からこれまでに至るまで、実際にいくつかの実証実験を行って、協議会で報告や今後の方向性について協議してきたところです。

続いて2ページ目、第1期ビジョン中に行った社会実験についてです。

第1期については、様々な分野の取組を試していき、どんなものが圏域に合っているのか、あるいは効果があったり実現可能であるのか、ということを見てきまし

た。

令和5年度は初めて足健診を行うとともに、ペグアモーレという機械を使って、認知機能のテストを行いました。

令和6年度は、ガバメントピッチという国が主催する自治体と企業のマッチングイベントを通じて、LINEを使った簡易健康診断ツールWELLBE CHECKを圏域で実施しました。これに加え、2回目の足健診と、カメラで歯の状態をチェックするAI歯科健診を行いました。

令和7年度については、先ほど資料1で御説明した通りです。

令和8年度については、AI歩行診断など継続できればと考えておりますが、未定としています。

令和5年度から7年度までで、累計で8件、種類としては5種類の社会実験を行ってまいりました。

それでは続いて第2期ビジョンの説明となります。

2ページ目下部、こちらは現行の第1期のビジョンの内容についてとなります。

この第1期ビジョンのなかで、ICTを活用した健康づくり事業ということで、圏域住民の健康づくりに取り組んでまいりました。

事業概要として、ICTの活用を含め、健康づくりの充実に向けた市町村の協議や調査・研究を行うとともに、官民連携による健康づくりプロジェクト推進協議会を設立し、社会実験を行うなど、健康づくりに資する取組を実施することとしており、こういった方針に沿ってこれまで取組を行ってきたところです。

連携の効果としては、圏域全体で取り組むで官民連携がしやすくなることが想定され、新たなプロジェクトが実施しやすくなるということがありました。

スケジュールについてはおおむね記載のとおり進めてきたところです。

概算事業費ですが、第1期の策定当初は、最初に令和4年度にアンケートを行うため、やや多めの86万円を計上し、その後は56万円としておりました。ですが、社会実験をするためには費用の不足が見込まれたことから、令和7年度から、社会実験費を確保すべく、82万9千円に予算を引き上げて事業を実施してきたところです。

役割分担としては、水戸市が事務局となって取組を進め、連携市町村には適宜それに協力いただくという形となっています。

KPIについてですが、こちらは健康づくりに係る社会実験の取組件数ということで、累計2件を目標としていたところです。これは先ほど御説明したとおり、累計8件の社会実験を行っておりますので、達成したと言えます。

続いて3ページ 第2期ビジョンについてとなります。こちらが第2期ビジョンの素案となっております。

内容についてですが、全体的にこれまでの第1気の内容を踏襲しつつ、さらに実効性の高いものを目指す内容となっております。

まず事業名について、第1期では「ICTを活用した健康づくり」とあったところ、「デジタル技術を活用した健康づくり」としました。

元々健康づくりの文脈において、「ICTを活用した、〇〇」ということがよく言われておりました。ICTとは情報通信技術を表しますが、例えば遠隔でのオンラ

イン診療であったり、SNSを活用したヘルスケアであったりなどです。

一方で、今後AIの活用がより増えたり、既にデジタル技術を利用した様々なヘルスケアがあるなかで、ICTよりも広い概念であるデジタル技術・デジタルヘルスという言葉を採用しています。

事業概要としてはデジタルヘルスに強みを持つ企業等と連携した取組を行うこととしており、これを広く圏域で行って健康課題の解決につなげていこうという方針となっています。

スケジュールについては、再来年度第2期ビジョンがスタートして以降、新しい取組があれば、社会実験として実施しつつ、今度は取組を圏域で実装することを目指します。

これまで第1期ビジョン中はどのような健康づくりの取組をしていくべきか探るためにも、様々な社会実験を行ってきたところですが、第2期からは一歩進んで、圏域でなにか継続的な取組を行い、結果を出していきたいと考えております。

次に概算事業費について、こちらあくまでも目安であることを最初にお断りさせていただきたいのですが、最初2年間は現在と同じ金額となっており、実装に向けての準備や、必要に応じて新たな社会実験なども検討したいと考えています。3年目以降は実装を見据えて金額を増やしております。

役割分担については第1期を踏襲した内容となっています。

KPIについては、実装の件数を1件としております。一過性ではない、継続的で実効性の高い健康づくりの取組を圏域で行うというのは、1件でもハードルは高いものではあります。第2期においてはこちらを目標に取り組んでまいりたいと考えております。

議題(3)の説明については以上です。

【会長】 ただいまの内容につきまして、質問等ございましたら、よろしくお願いいたします。

いよいよ第2期の5年間の計画になりますが、いかがでしょうか。

【\_\_\_委員】 \_\_\_でございます。お世話になっております。

今までは様々なコンテンツを市民の方に提供して、市民の方がそのコンテンツを選んで様々な健康づくりに取り組んで、それをいかにそれぞれの市町村の健康づくりに生かせるようにするかという実験なのかなと思っていたのですが、第2期の内容を見てみると、イベント的なものを色々ところで開催して、来た方に様々なサービスを提供していく形態のように感じたのですが、今後の取組の形はどのようなになるのか、教えていただければよろしいでしょうか。

【事務局】 おっしゃっていただいたように、特にこの第1期に関しては様々なコンテンツとして社会実験を行ったところになります。

様々な実験、社会実験を行う中で、どういったものが今後も継続していけるのか、実現可能なものか、あるいは住民の方に需要があるのかどうかというのを見てきたというのが第1期のビジョンで、やってきたところになっています。

第2期に関しては、そういったことも多少継続はしつつ、色々なものをやるというわけではなくて、1つ腰を据えて実施していきたいという風に考えております。

ただし、第2期の中でこういった取組を行っていくのかがまだ決定しているわけではないので、こういった形になるのかというところまではまだ、私自身もそこまでイメージができていないのですが、例えば、各市町村にイベントがある中で、AI歩行診断のようなものを各地でどんどん回していき、多くの方に体験してもらおうというのを、社会実験としてではなく、事業として定期的実施するといったことを考えています。

【\_\_\_委員】 私どもは市町村の皆さんと一緒に健康診断を行っていて、特に共通の課題としてあるのが、無関心層、先ほど行動変容という話がありましたが、無関心の方に対していかに行動変容を起こさせるかというところで、非常に大事なことだと思っています。

実験として実施するのはよいのですが、これまで行ってきた実験は健康のイベントであったり、スポーツのイベントということで、そもそもが体の健康に対して関心がある方がターゲットになってるような気がしました。

我々もその無関心の方にどうやってアプローチするかというのは、非常に悩むところなので、こういう結果を見ながら、我々も参考にさせていただきたいと思いました。

【\_\_\_委員】 第2期のビジョンに通ずるかどうかわかりませんが、先ほど\_\_\_委員から御説明あったとおり、無関心層に関しての健康のバロメーターというか、水戸市をはじめ9市町村の皆様における健康の指標みたいなものがあればもっと分かりやすく市民の皆様配布もできますし、それを通じて無関心層の底上げというか、周知もできるんじゃないかなと考えた次第です。

【事務局】 すいません、バロメーターというのは例えばどういうイメージでしたでしょうか。

【\_\_\_委員】 例えば、1年間通して健診に行ったか、歯科検診も含めた様々な検診を受診をしたことがあるかどうかとか、健康づくりで何か個人的・集団的に取り組んでいるかというような、具体例を含めての、住民の皆様が分かりやすい答えができるようなものがあれば、そこからの底上げできるんじゃないかなと考えた次第です。

【事務局】 各自が検診を受けているかどうかや、その状態が良くなったかなど、健康のバロメーターとして考えられるものが様々あって、それがどのように変化してきたかというところが大事だと思うのですが、こちらは各市町村で持っているデータも駆使しながら、検討してまいりたいと思います。

それと第2期ではどのような事業を行うのかにもよるとは思います、健康のバロメーターというのはすごくたくさん種類が考えられると思います。

例えば、検診であったり、血圧であったり、様々なものがある一方で、第2期での事業として行うものによって測れる健康のバロメーターというのがあると思います。それを数年間にわたって各市町村でどういう風に変化してきたか、さらに、実はそれが検診など別のバロメーターにも影響があったりとか、1つの事業が他の健康のバロメーターにも影響があったというのがもし見られればいいなと考えております。

【\_\_\_委員】 おっしゃるとおりだと思います。私はそれを非常に見てみたいと思っています。ありがとうございます。

【\_\_\_委員】 第2期のビジョンに関わってくるかどうかかわからないのですが、昨年度、A I 歯科検診というものをやっていたと思います。

\_\_\_委員もいらっしゃいますが、来期、歯科の方の取組ももしあればいいと思うのですが、そのような希望はないでしょうか。

【\_\_\_委員】 このA I 歯科検診に関しましては、熊本にある企業の方に手を挙げていただいて、先ほど御説明あったとおり、口の中をデジタルカメラで撮影して、むし歯や歯周病のリスクがどれくらいあるかという判断ができるようなものだったそうです。

ただ、写真撮影に関しても、お口の中は暗いものです。暗いお口の中を室内で一生懸命撮影されているのですが、なかなかいい結果が出ていないようで、受診された方々に関しては少し不評だった部分もあったという話は聞き及んでいました。

それと、余談でございますが、水戸市と水戸市歯科医師会で協同で進めております市民公開講座というものが2月11日に行われました。

今回、体験型の参加ブースを3つ作り、住民の方々に体験していただいたのですが、非常に好評でした。ありがとうございました。

【会 長】 よろしいでしょうか。

【\_\_\_委員】 はい。ありがとうございました。

【会 長】 ほか、いかがでしょうか。特によろしいですか。

またあとの時間で何かもし何かございましたら、よろしく願いいたします。

来年度の社会実験につきましては、引き続き事務局を含めて各市町村担当において検討いただき、検討結果を次の協議会で出していただきますようお願いいたします。

イベントが特にキーになってくると思いますので、健康フェスティバルや健康関係ですとどうしても年齢層が高めになってしまうので、それ以外のイベントも活用できると、本来ターゲットとして年齢層も対象になってくると思いますので、ぜひとも御検討よろしく願いいたします。

続いて「その他」に入りますけれども、何か発言したい方いらっしゃいますでしょうか。1つ目の議題、2つ目の議題に兼ねても大丈夫ですし、関係のない部分でも大丈夫です。よろしいですか。

それでは、事務局から今後の予定等の説明をお願いいたします。

【事務局】 今回の協議会の開催になりますが、来年度の夏頃を予定しております。

この際には、本日お話をさせていただきました、令和8年度の社会実験について、少し方針などを御説明できるようにしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、来年度に関しては、大体の予定ではありますが、夏と冬の2回開催をしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【会 長】 次回は8月頃の開催を予定し、議題としては令和8年度の社会実験等について御審議いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日の内容に関わらず御不明な点や御意見等がございましたら、メールや電話など、どのような形でも構いませんので事務局まで御連絡くださるようお願いいたします。

それでは、私の進行はここまでとさせていただき、事務局にお返ししたいと思います。

委員の皆様方には、大変円滑な議事運営に御協力いただきまして、ありがとうございました。

【事務局】 \_\_\_\_会長，ありがとうございました。

長時間にわたりまして、御審議いただきまして、ありがとうございました。

以上をもちまして、令和7年度第1回茨城県央地域ウエルネス推進協議会を終了させていただきます。ありがとうございました。

上記に相違ないことを確認する。

氏 名

氏 名